

「森を守るファーン川流域ネットワーク」の活動とホアファイ集落の取り組み

9月13日 午前講義

「森を守るファーン川流域ネットワーク」役員の一である、ブンレン・ティップムン氏からホアファイ集落の環境保護活動に取り組み始める経緯とその歴史が語られた。午後は学校、集落内を村人ともに歩き、立体地図、集会所の活動記録、取水システムなどに関して現場で解説を受けた。

講師：木村茂、ブンレン・ティップムン

チェンマイ県チャイプラカン郡、スードンイエン区・ホアフォイ集落にある集会室にて、「森を守るファーン川流域ネットワーク」役員の一である、ブンレン・ティップムン氏を情報提供者に迎え、木村茂氏を講師に森林保護の話をついた。ティップムン氏は、聴講者に、それぞれが対象とするフィールドで気候変動や環境変化がどのような形で起こっているのかを問いかけた後、ホアファイ集落の歴史及び彼らの活動について説明した。

ティップムン氏によれば、水源に近い、自然豊かな場所につくられたこの集落は、今から100年程前までは、自然と一体の暮らしが保たれていたという。しかし1980年代から、資本主義の浸透により、この均衡が大きく崩れ始めた。人々が、現金収入を求め、村の資源を企業へと売るようになったためである。特に森林の伐採においてその勢いはすさまじく、村の全世帯が伐採と関わるようになった。このような状況が数年続いた後、村に大洪水や干ばつの自然災害が頻発するようになった。死者の発生や耕作地の破壊といった環境悪化を受け、人々は集落を越えて話し合いを始めたという。

このような状況を受けて、1998年に設立されたのが、「森を守るファーン川流域ネットワーク」である。集落や地区での取り組みではなく、同じ川を共有する人々全体で問題に取り組むという視点が、本ネットワークの特徴だという。

設立から3年の間、伐採を継続する村人との衝突、密伐採者によるネットワーク関係者の殺害未遂事件など深刻な問題となった。これを受けて、本ネットワークは、それまで外部への働きかけを主な活動としていたのに対し、森林伐採に代わる就労を促進する具体的な規則の作成といった、集落内部への働きかけに活動の方向を転換していった。その一環としてなされているのが、NGO 団体 Link 及び大学との協力による、GPS を利用した村の地図作りや、村落史の記録等である。地図の作成によって、伐採の規則や地権が具体的なものとなり、村の外部の人々や政府との交渉が有利になるという。また、村の過去を振り返ることで、将来を考えるきっかけとすることを目的とした、村の歴史、また環境に関する授業も学校で行われていることも説明された。

森を「スーパー・マーケット(何でも揃う市場)」に例えるティップムン氏の話からは、村の人々の森に対する愛着を非常に強く感じることができた。また、森林保護に取り組みながら、その結果として河川や田畑、政府や企業との関係を含む地域全体、人々の生活や

志向といった、人と自然の営みを広く視野にいたした活動を発展させていっていることに感心を感じた。今回の話は、自身のフィールドや日本の環境、また対象の捉え方を考える良いきっかけとなった。

(文責：西山愛実)

初日は NGO・Link の調査村である北タイの集落を訪れた。100戸からなるホアファイ郡には小・中一貫の学校があり、この地域では最大の集落である。私たちが案内されたのは公民館らしき建物であり、そこには森林保全運動の中心メンバーが待っていた。

円卓に全員が腰掛けると、まずは自己紹介が始まった。続いて Link の木村代表から日本語で簡単な説明を受け、メンバーの中で一番話し上手という人物（村長ではないらしい）が活動の概要を話し始めた。

北タイでは良質のチーク材が産出するため、19世紀半ばから商業目的で伐採が行われていた。次第にファーン河の下流域で洪水が起こるなどの環境問題が取り沙汰されるようになり、1989年に商業伐採が全面的に禁止された。しかし、1989年以後も違法伐採が後を絶たず、状況は改善されなかった。森林資源の枯渇によって、村人たちも被害を受けていたにもかかわらず、環境破壊の当事者であるとの批判を受けていた。

自らも商業伐採に少なからず関わっていた村人たちは、長い論争の末に全員で違法伐採から手を引く決断をする。解説者はこの段階が最も辛い時期であったとの感想を述べた。彼らの活動は、コミュニティ林法の成立に向けて動き出し、現在は最高裁まで争っているそうである。このような活動が認められ、ホアファイ集落は環境問題に参加型で取り組むモデル村として、国から指定されるに至っている。

話の後は村人から食事が振舞われ、楽しい一時を過ごした。食後は学校を見学し、カリキュラムに環境教育が盛り込まれていることを知った。「森を再生させるためには、地面に苗を植えるだけでなく、人々の心に苗を植えることが重要だ。」という解説者の言葉が印象的だった。

(文責：池田篤史)